



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、年度末に向け、今年度のまとめや新年度の準備を進められていることと存じます。

さて、11月の養護教員研究大会では、ご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。大会アンケート結果をご報告させていただきます。



平成 29 年度 愛媛県養護教員研究大会 アンケート報告

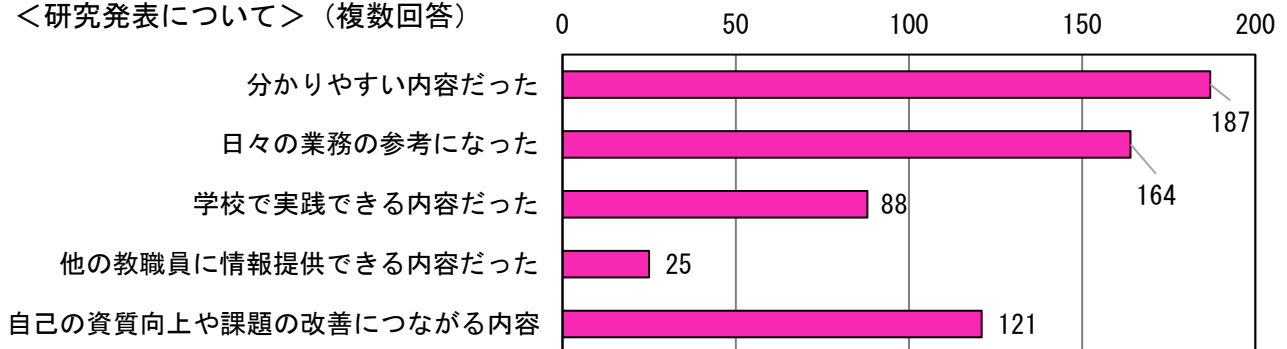
(回答者 240 名 / 参加者 271 名)

1 研究発表

- 「児童が自ら進んで健康な心と体をつくるための健康教育の研究と実践」～ブロック別研究を通して～
松山市小学校養護主任会（発表：松山市立湯山小学校 酒井 裕子 養護教諭）
- 「望ましい生活習慣の定着を目指した効果的な連携の在り方」
西宇和支部養護部会（発表：伊方町立三崎小学校 梶原 ゆかり 養護教諭）



<研究発表について> (複数回答)



【参加者の声より】

- 研究発表やその後の協議では、今後の職務に生かすことのできる健康教育の方法や内容、地域や家庭との連携について学ぶことができた。
- 一人では難しいことも、組織の力で実現につなげていくことができると感じた。コーディネーター力を発揮し、学校や保護者を巻き込んで主体的に健康づくりに取り組める子どもたちを育てていきたい。
- PDCAサイクルの中で健康教育に取り組み、支部内で連携しあって、チームとして研究や実践ができていて参考になった。
- 松山支部はブロック別の研修が充実していた。もっと詳しく知りたい。伊方町では、小規模の利点を生かして地域に密着した活動が進められていて、連携のモデルケースだと思う。

2 指導助言

愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 鴻上 佳子

- 松山市小学校養護主任会の研究発表は、54校63名が所属し、8ブロックに分かれ統一した研究テーマで行われる研究実践は大変貴重で、その成果は確実に子どもたちの健康の保持増進、意識の向上につながっている。各ブロックでの取組を通じて、養護教諭一人一人の力が高まったことが、一番の大きな成果である。
- 西宇和支部養護部会の研究発表は、生活習慣の乱れを支部全体の問題として捉え、学校・家庭・地域と連携した取組があり、主題設定、仮説、実践が一本化した分かりやすい発表であった。地域を挙げて取り組みやすいという西宇和の利点を生かし、今後も学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちに必要な生きる力を育んでいただきたい。

3 講演

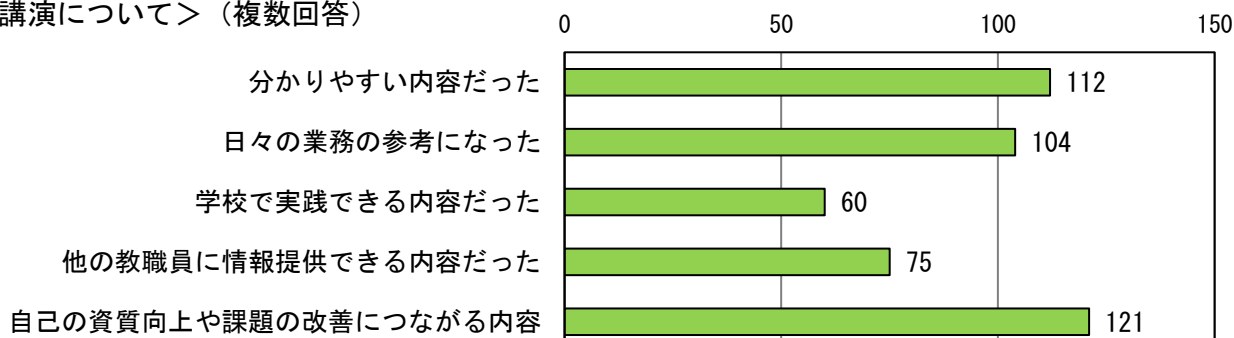
「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり

～子供たちの未来を築く望ましい生活習慣の形成を見据えて～

講師 東京女子体育大学 教授 戸田 芳雄 先生



<講演について> (複数回答)



【参加者の声より】

- 養護教諭のコーディネーター力と言われるが、職員会での研修時間の確保、情報の共有など、教えていただいたことから始めたい。
- 歯と口の健康を、単発に捉えるのではなく、それをきっかけにして、健康とは何か、健康を保つためには何が必要か、体や心の状態はどうか、など様々なことと連携させたい。
- 「子どもの口から生活や心が見える」を心に留め、健康づくりを進めていきたい。
- 話題が豊富で、戸田先生の話に引き込まれた。歯と口の健康を切り口に、当たり前のことを積み重ねつつ、子どもたちの実態に応じて取組に工夫を加え、継続して指導していきたいと思った。
- 「養護教諭のサポーターをしてきて、今も応援し続けている」と言われ、力がわいてきた。

ご意見やご感想、ありがとうございました。来年度の運営に生かしていきたいと思っております。



— 平成30年度 第39回愛媛県養護教員研究大会 お知らせ —

- ◇ 期 日 平成30年11月9日(金) ◇ 会 場 エスポワール愛媛文教会館
- ◇ 研究発表 喜多支部、上浮穴支部 ◇ 講演(講師) 未定